

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200064		
法人名	九州メディカル・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム安心しらかべ		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字白壁244番地1		
自己評価作成日	平成28年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年3月28日	外部評価確定日	平成28年4月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者本位の介護を第一としており、その人がその人らしい自立した生活ができるように援助を行っている。地域の行事には積極的に参加をし入居者の方も地域の行事を楽しみにされている。夏祭りなど施設の大きな行事の時には地域の方にも声をかけご案内をし多くの方が参加をして頂いたり地域との交流を大事にしている。又、医療面に関しても協力医療機関である仁徳会今村病院と、訪問看護ステーション安心との医療連携により、入居者様の健康管理や急変時の迅速な対応が出来、安心して生活を送れるように過ごして頂いている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

レクリエーションに力を注いでいる事業所で、利用者の方々が、大きな声と笑顔でレクリエーションを楽しんでいる姿が印象的である。管理者は、利用者の思いを優先していかにふれ合うかを考えており、利用者の表情や盛り上がりを見ながら楽しんで頂くレクリエーションメニューを考案している。業務の都合よりもレクリエーションを優先する支援に努めている。居間の壁にはレクリエーションの予定が書かれたボードが貼ってあり、利用者は予定表を見ながら楽しみに待っている。管理者は、事業所開設以来地域との交流が進んできていると確信しており、地域に溶け込んだ日常生活が提供されている。運営推進会議を通して事業所を知って頂く取り組みを行い、避難訓練時には回覧板を活用して地域住民の参加、利用者に対する避難場所での見守りの協力をお願いしている。また、避難訓練当日は、訓練開始時間前に集まって頂き、ホームの中を見て利用者はどんな方々か知ってもらうように努めている。

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念の昭和と確認を行い、理念の共有と意識付けを図っている。理念を念頭に職員は日々の業務に取り組んでいる。	朝礼時に理念の昭和と確認を行い、理念の共有と意識付けを図っている。理念を念頭に職員は日々の業務に取り組んでいる。	法人の理念を基に、明るく笑い声がたえない家庭的な生活を支援する事業所理念を作っている。楽しんで頂くレクリエーションを考案し、管理者と職員は利用者と楽しくふれ合いながら理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行われる行事の際は地域のボランティアの方に来ていただいたり、月に1回傾聴ボランティアの方にも訪問をして頂いている。地域で行われる行事があれば積極的に参加をし地域との交流を図っている。	ホームで行われる行事の際は地域のボランティアの方に来ていただいたり、月に1回傾聴ボランティアの方にも訪問をして頂いている。地域で行われる行事があれば積極的に参加をし地域との交流を図っている。	自治会に入会し、回覧板が回ってきている。管理者は、地域とのつながりや助け合いの重要性を認識しており、回覧板を活用しての情報発信も行われている。地区のまつりやほんげんぎょう、やぶさめ見物などにも積極的に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議の際にはご家族や地域の方、保険者など参加して頂き情報の交換を行い認知症の理解や支援に活かしている。	2ヶ月に一度の運営推進会議の際にはご家族や地域の方、保険者など参加して頂き情報の交換を行い認知症の理解や支援に活かしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の事業計画や行事、入居者の状況報告を行っている。会議の中で頂いた意見や情報は職員に伝達し話し合いを行いサービスの向上に努めている。	施設の事業計画や行事、入居者の状況報告を行っている。会議の中で頂いた意見や情報は職員に伝達し話し合いを行いサービスの向上に努めている。	管理者は、運営推進会議は事業所を知っていただくための重要な情報発信の場とらえている。出席委員に必ず声掛けをして発言を求めており、疑問に思っていることなど色々質問が出されている。介護や認知症の勉強会も行われている。出された意見や要望は検討し、玄関にインフルエンザ対策のマスクを常備するなど、運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鳥栖広域介護保険組合や地域包括支援センター、区長、民生委員、地域住民の方と情報交換を行い協力関係の構築に努めている。又、地域ケア会議やネットワーク会議に参加をし事業所の実績やサービスを伝えている。	鳥栖広域介護保険組合や地域包括支援センター、区長、民生委員、地域住民の方と情報交換を行い協力関係の構築に努めている。又、地域ケア会議やネットワーク会議に参加をし事業所の実績やサービスを伝えている。	行政関係者が運営推進会議の委員でもあることから、日頃から協力関係があり、何でも相談できる関係ができている。管理者は、各種会議を通じて積極的に情報の発信に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について外部での研修へ参加をしたり、施設内での勉強会を行ない理解している。	身体拘束について外部での研修へ参加をしたり、施設内での勉強会を行ない理解している。	事業所の方針として、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。職員は身体拘束に関する研修を受け、言葉による拘束・精神的な拘束も無い支援を心がけている。大声や大きな音に気をつけ、ダメ・待ってなど利用者の行動を抑制する言葉づかいをしないように気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修へ参加をしたり、施設内の勉強会を行い虐待について理解している。毎月実施しているカンファレンスや朝礼時でも伝達し、細心の注意を払い虐待防止に努めている。	外部での研修へ参加をしたり、施設内の勉強会を行い虐待について理解している。毎月実施しているカンファレンスや朝礼時でも伝達し、細心の注意を払い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及びケアマネは外部研修で学んでおり、施設内での勉強会を行い学ぶ機会を設けている。	管理者及びケアマネは外部研修で学んでおり、施設内での勉強会を行い学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には事前に施設見学や、十分な説明を行い双方が納得の上で契約を行っている。	入居希望者には事前に施設見学や、十分な説明を行い双方が納得の上で契約を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やサービス担当者会議、ご家族の面会時には意見や要望を伺っている。又、玄関に意見箱を設置して意見や要望があれば話し合い対処している。	運営推進会議やサービス担当者会議、ご家族の面会時には意見や要望を伺っている。又、玄関に意見箱を設置して意見や要望があれば話し合い対処している。	管理者は、家族や利用者とは話すことを心がけ、意見や要望の把握に努めている。面会の少ない家族には、電話で意見や要望を聞いている。出された意見や要望は速やかに検討し、排便コントロールで運動を取り入れたり水分補給に気をつけるなど運営に活かされている。請求書発送時には利用者がコメントを書き入れたホーム新聞を同封している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスやその都度意見や提案があれば話し合いを行っている。その時にでた意見や要望を運営に反映出来るように取り組んでいる。	毎月のカンファレンスやその都度意見や提案があれば話し合いを行っている。その時にでた意見や要望を運営に反映出来るように取り組んでいる。	管理者と職員は普段からよく話し、何でも言える関係ができています。夜間対応に関する支援の変更や、レクリエーション道具を増やしたり物品の購入など、出された意見や要望は運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部での研修への参加の希望があれば対象者に参加を促したり、可能な限り勤務時間内で行けるようにし、働きやすくやりがいのある環境を作れる様になっている。	外部での研修への参加の希望があれば対象者に参加を促したり、可能な限り勤務時間内で行けるようにし、働きやすくやりがいのある環境を作れる様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に法人の内外の研修の情報を提供し、個人にあった研修、必要と思われる研修があれば声をかけ参加できる機会を作っている。参加した職員は他の職員に向けて勉強会を開催し個々のスキルアップできる場を提供している。	職員全員に法人の内外の研修の情報を提供し、個人にあった研修、必要と思われる研修があれば声をかけ参加できる機会を作っている。参加した職員は他の職員に向けて勉強会を開催し個々のスキルアップできる場を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での職員の相互訪問、地域で行われる地域ケア会議やネットワーク会議に出席できるように取り組んでいる。	法人内での職員の相互訪問、地域で行われる地域ケア会議やネットワーク会議に出席できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人ひとりに担当者を決めコミュニケーションの機会を増やし、入居者の方が安心出来るように、職員全体で取り組んでいる。	職員一人ひとりに担当者を決めコミュニケーションの機会を増やし、入居者の方が安心出来るように、職員全体で取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や意見を事前にしっかりと聞き、施設として説明を行い、家族の希望に沿うケアができる様に努めている。	家族の要望や意見を事前にしっかりと聞き、施設として説明を行い、家族の希望に沿うケアができる様に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いを行い、ケアマネージャーを中心に全職員で話し合い必要な支援を行うように努めている。	本人・家族と話し合いを行い、ケアマネージャーを中心に全職員で話し合い必要な支援を行うように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者と一緒に作業を行ったり、出きる事は可能な限り本人に行き、本人本位の支援を提供出来るよう努めている。	職員と入居者と一緒に作業を行ったり、出きる事は可能な限り本人に行き、本人本位の支援を提供出来るよう努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見や要望を聞き、情報を共有する事で共に入居者を支えていける関係作りに努めている。	家族の意見や要望を聞き、情報を共有する事で共に入居者を支えていける関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族や本人から得た情報を基に、友人や馴染みの場との関係が途切れないように、入居者・家族と相談し携帯電話・年賀状・ボランティアの訪問など支援に努めている。	入居時に家族や本人から得た情報を基に、友人や馴染みの場との関係が途切れないように、入居者・家族と相談し携帯電話・年賀状・ボランティアの訪問など支援に努めている。	知人友人の面会時にはお茶の接待をし、ゆっくり過ごせる雰囲気づくりをし、帰られる時には「またお願いします」と一声かけて再訪しやすい環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝の体操や、日々のレクリエーションなどコミュニケーションの場を提供し、交流が図れるようにしている。	毎朝の体操や、日々のレクリエーションなどコミュニケーションの場を提供し、交流が図れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		退去後も施設行事のご案内、参加の促しや必要に応じて継続的に連絡を行うように努めている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションの機会を設け希望や要望の把握に努めている。入居者一人ひとりに担当者を決め困難な場合には、日常のケアや状態観察、家族からの情報収集を行い出来るだけ本人本位に検討している。	コミュニケーションの機会を設け希望や要望の把握に努めている。入居者一人ひとりに担当者を決め困難な場合には、日常のケアや状態観察、家族からの情報収集を行い出来るだけ本人本位に検討している。	職員は利用者の意思を尊重し、言葉や様子など日々の生活の中から意向を汲み取るように努めている。今は声を出して話す利用者も多く、職員は利用者の手を握ったり身体にふれ、目線を合わせながら会話するように努めている。発語の少ない利用者には、表情やしぐさから意向を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を傾聴したり、家族の方より話を伺う事で個々の生活歴の把握に努めケアに反映出来るように努めている。	本人の話を傾聴したり、家族の方より話を伺う事で個々の生活歴の把握に努めケアに反映出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時の申し送りや、状況を記録に残し職員間での情報交換や話し合いで現状を把握した上で適したサービス提供に努めている。	朝礼時の申し送りや、状況を記録に残し職員間での情報交換や話し合いで現状を把握した上で適したサービス提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは本人や家族の意見や要望を把握、確認し、職員や関係者で話し合いを実施し本人本位の介護計画を作成している。又、定期的な見直しや毎月モニタリングを行いつついる。	ケアプランは本人や家族の意見や要望を把握、確認し、職員や関係者で話し合いを実施し本人本位の介護計画を作成している。又、定期的な見直しや毎月モニタリングを行いつついる。	利用者や家族から要望を聞き、具体的な介護計画が立てられており、課題や長期・短期の目標、援助内容が分かりやすく書かれている。個人の記録で毎日評価を実施し、ケア会議やカンファレンスを通して、現状に即した介護計画が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌などに毎日の記録をし、職員で情報の共有を行っている。又、日々の記録は介護計画に生かしている。	個人記録、業務日誌などに毎日の記録をし、職員で情報の共有を行っている。又、日々の記録は介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関係医療機関と連携し可能な限り柔軟な支援サービスを実地するように取り組んでいる。	関係医療機関と連携し可能な限り柔軟な支援サービスを実地するように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加をしたり、近所の公園を利用し楽しんで頂けるよう支援している。	地域の行事に積極的に参加をしたり、近所の公園を利用し楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の在宅総合診療を利用し適切な医療の提供が受けられるように支援している。本人や家族の希望でかかりつけ医など通院も行っている。	協力医療機関の在宅総合診療を利用し適切な医療の提供が受けられるように支援している。本人や家族の希望でかかりつけ医など通院も行っている。	入居前のかかりつけ医の継続受診を基本としているが、利用者や家族の意向で協力医への変更も支援している。往診の関係から、殆どの利用者は協力医受診へと変更されている。通院は家族の送迎を基本としているが、職員での対応もなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態をしっかりと観察し、異常の早期発見に努め変化があれば訪問看護師と連携を図り適切な対応ができるよう指示を仰ぎ支援している。	入居者の状態をしっかりと観察し、異常の早期発見に努め変化があれば訪問看護師と連携を図り適切な対応ができるよう指示を仰ぎ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限り治療の為に必要と思われる情報を提供し、病院へ職員が面会に行き情報交換を行ったり早期退院ができるように努めている。	可能な限り治療の為に必要と思われる情報を提供し、病院へ職員が面会に行き情報交換を行ったり早期退院ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期について本人や家族の意思を確認している。入居者の状態の変化に応じて随時協議をして意向などの確認をし家族・医師・訪問看護師・職員全員で方針を共有している。	入居契約時に重度化や終末期について本人や家族の意思を確認している。入居者の状態の変化に応じて随時協議をして意向などの確認をし家族・医師・訪問看護師・職員全員で方針を共有している。	重度化した場合における(看取り)指針があり、利用契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。入院や重度化するなど利用者の状態に合わせて家族と話し合う体制ができており、看取り経験も複数回ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って緊急時の連絡先や対応を職員全体で把握している。又、カンファレンスや勉強会も行っている。	緊急時マニュアルに沿って緊急時の連絡先や対応を職員全体で把握している。又、カンファレンスや勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施しており、より実践に近い形で消防職員等に立ち会ってもらったり地域の方にも多く参加して頂き実施している。	年に2回の消防訓練を実施しており、より実践に近い形で消防職員等に立ち会ってもらったり地域の方にも多く参加して頂き実施している。	年2回、利用者や地域住民も参加して自衛消防訓練が実施されており、要改善項目の検討・改善などの訓練結果も記録し整理されている。訓練時を利用して、ホームの中や事業所を知って頂く働きかけも行われ、災害時における協力体制の確立を図っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日頃から理念を念頭におき、入居者の尊厳を大切にしている。言葉遣いに注意し一人ひとりに合わせた声かけや対応をしている。	職員は日頃から理念を念頭におき、入居者の尊厳を大切にしている。言葉遣いに注意し一人ひとりに合わせた声かけや対応をしている。	個人情報に関する同意書・個人情報保護に関する同意書があり、電話の取次ぎや部屋の表示・面会者など詳細な取り決めがなされている。特に肖像権(写真)は慎重に取り扱われている。職員は、利用者本人の人格を尊重した言葉かけや口調に注意し、敬意を払った対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや希望を日々の会話の中で聞きとり、その人に合ったサービスを提供出来るように努めている。	個々の思いや希望を日々の会話の中で聞きとり、その人に合ったサービスを提供出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度活動の時間を決めているが、強制せず本人の思いを尊重している。入居者中心とし、一人ひとりに合った過ごし方をサポートしている。	ある程度活動の時間を決めているが、強制せず本人の思いを尊重している。入居者中心とし、一人ひとりに合った過ごし方をサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容に来てもらったり、行事などの際は化粧やおしゃれをしたりその人らしい身だしなみが出来るように支援している。	月1回訪問美容に来てもらったり、行事などの際は化粧やおしゃれをしたりその人らしい身だしなみが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はクックチルシステムを導入しておりあらかじめ決まっているが、台拭きやつぎわけをお手伝いしてもらったり、月に一回お菓子作りを行い楽しんで頂いている。	献立はクックチルシステムを導入しておりあらかじめ決まっているが、台拭きやつぎわけをお手伝いしてもらったり、月に一回お菓子作りを行い楽しんで頂いている。	全食事がクックチル利用となっているため、利用者が献立に希望を表すことが困難である。食事が楽しみになる取り組みとして、月1回お菓子作りを利用者と一緒に行っている。今後は、利用者の希望を取り入れてお菓子作りを月2回にしたり、料理も作っていきたい考えも持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量や食事を記録し、1日トータルでの摂取量も記載している。又、摂取量が少ない入居者には本人の好きな飲み物を提供したり、高カロリー食品で補ったり、入居者の方に合った方法で補えるようにしている。	一人ひとりの水分量や食事を記録し、1日トータルでの摂取量も記載している。又、摂取量が少ない入居者には本人の好きな飲み物を提供したり、高カロリー食品で補ったり、入居者の方に合った方法で補えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は入居者の方に合った方法で口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。	食後は入居者の方に合った方法で口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェックシートを用いり排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本とし入居者に合った排泄支援を心がけている。	チェックシートを用いり排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本とし入居者に合った排泄支援を心がけている。	利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。様子や表情、時間でのトイレ誘導が主で、おむつや紙パンツ・パッドなど本人の必要に合わせて支援している。	トイレ内が気持ちよく排泄できる空間となり、利用者自らが進んでトイレに足が向くように、ペーパーをはじめとする備品の整備も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランス、栄養価に配慮し、毎日乳製品の提供を行っている。又、毎朝、体操を行い体を動かしたり必要に応じてホットパックの使用や腹部のマッサージを行い便秘の予防に努めている。	栄養バランス、栄養価に配慮し、毎日乳製品の提供を行っている。又、毎朝、体操を行い体を動かしたり必要に応じてホットパックの使用や腹部のマッサージを行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則的に週に2回以上の入浴日を設けているが、状況に応じていつでも入浴ができるようになっている。体調やプライバシーにも配慮しながら入浴の支援をしている。	原則的に週に2回以上の入浴日を設けているが、状況に応じていつでも入浴ができるようになっている。体調やプライバシーにも配慮しながら入浴の支援をしている。	入浴は2～3日に1回が基本であるが、要望があれば考える用意がある。入浴以外では、清拭やシャワー浴などにも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活暦や状況に応じて、安心出来る空間や環境作りに努めている。	入居者一人ひとりの生活暦や状況に応じて、安心出来る空間や環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と職員が協力し安全に服薬が出きるようにしている。服薬の変更があった際は記録への記載と申し送りを行い伝達し、職員全員が確認できるようにしている。又、週に一度、事業グループの薬剤師が訪問し、情報交換や服薬指導をしてもらっている。	看護師と職員が協力し安全に服薬が出きるようにしている。服薬の変更があった際は記録への記載と申し送りを行い伝達し、職員全員が確認できるようにしている。又、週に一度、事業グループの薬剤師が訪問し、情報交換や服薬指導をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事のつぎ分けや洗濯物たたみ、カーテンの開け閉めなど、生活暦を活かしその方に合った役割を持って頂いている。毎月計画する行事や毎日違ったレクリエーションを行い、楽しみや気晴らしができるように支援している。	食事のつぎ分けや洗濯物たたみ、カーテンの開け閉めなど、生活暦を活かしその方に合った役割を持って頂いている。毎月計画する行事や毎日違ったレクリエーションを行い、楽しみや気晴らしができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時には散歩を行ったり、行事計画の中にドライブを計画し、入居者の意見も取り入れ、外食や買い物など行き先を検討している。	気候の良い時には散歩を行ったり、行事計画の中にドライブを計画し、入居者の意見も取り入れ、外食や買い物など行き先を検討している。	管理者は、利用者が外気に触れることは気分転換になり、生き生きとしてくと認識している。お話をしながら近所を散歩したり、季節に合った花見ドライブなど、利用者の要望に沿った外出支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣のスーパーやコンビニで買い物が出来る程度の金額は家族の協力のもと自己管理をして頂いている。	近隣のスーパーやコンビニで買い物が出来る程度の金額は家族の協力のもと自己管理をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月ご家族に郵送する写真に入居者自らコメントを書いて頂いており、ご家族も楽しみにされている。又、本人が希望されたり、状況に応じて電話や手紙の代筆を援助している。	毎月ご家族に郵送する写真に入居者自らコメントを書いて頂いており、ご家族も楽しみにされている。又、本人が希望されたり、状況に応じて電話や手紙の代筆を援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、入居者の作品である季節に応じた壁画や塗りえを飾り付けしている。又、週間レクリエーション表をフロアに掲示し入居者の方も楽しみが持てるような空間作りに努めている。	共有空間には、入居者の作品である季節に応じた壁画や塗りえを飾り付けしている。又、週間レクリエーション表をフロアに掲示し入居者の方も楽しみが持てるような空間作りに努めている。	早朝、出入り口を開けて換気を心がけ、加湿器を活用しながら心地よく過ごせるように支援している。居間兼食堂の一角が畳敷きとなっており、利用者や訪問者のゆっくりとした寛ぎの場として活用されている。ホーム内には季節の手芸品が楽しく飾られ、癒しを演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファや人掛けの椅子を設置し、思い思いに過ごして頂けるような居場所作りをしている。又、隣フロアへの行き来も自由にしており入居者同士の交流が出来るようにしている。	共有スペースにはソファや人掛けの椅子を設置し、思い思いに過ごして頂けるような居場所作りをしている。又、隣フロアへの行き来も自由にしており入居者同士の交流が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の使い慣れた家具や、希望の品を持ち込んで頂いたり、壁に写真やレクリエーションでの作品を飾ったりと、居心地の良い環境作りに努めている。	居室には入居者の使い慣れた家具や、希望の品を持ち込んで頂いたり、壁に写真やレクリエーションでの作品を飾ったりと、居心地の良い環境作りに努めている。	利用契約時に、文書と言葉で必要な品の持ち込みを伝えている。入居後に他の居室を見たり、職員の手助けや家族の協力で写真や手芸品・TV・カレンダーが飾られ、その人らしい居室づくりがされている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族や本人同意のもと、各居室にはネームプレートを設置し、場所が分かるようにしている。トイレや浴室もそれぞれ分かるように明記している。	ご家族や本人同意のもと、各居室にはネームプレートを設置し、場所が分かるようにしている。トイレや浴室もそれぞれ分かるように明記している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない